2006年4月発行
NO.14

千代田まちづくりサポート通信

編集・発行　（財）まちみらい千代田 まちづくりチーム
東京都千代田区神田錦町3-21　ちよだプラットフォームスクウェア4階
〒101-0054　TEL.03-3233-3223　FAX.03-3223-7557
財団ホームページ　http://www.mm-chiyoda.or.jp　E-mail　info@mm-chiyoda.or.jp

第７回公開審査会　最終成果発表会

３月５日、今回初めて、最終成果発表会が日曜日に開催された。町は人通りもまばらであったが、会場のプラットフォームスクエア5F会議室では、準備された100席が熱気で一杯となった。２年目、１年目グループの順で成果発表が行われた。多彩で豊かな成果がぞくぞく発表され、会場は大いに盛り上がった。「１年目の活動でここまでできるとは…！」との感嘆が漏れ聞こえてくるグループが複数あった。また、大学生を中心とした活動が「まちづくりサポート」に若々しい活力をもたらしてくれた。

３年目を迎えた卒業組は、今回５グループ。３年間の活動、様々な困難やハードルを乗り越え、実り豊かな活動成果が提示された。審査委員との質疑応答を含め、会場はその実践的な成果を確認できたようだ。市民活動として蓄積可能な、そして応用可能なリアリティーの高い活動成果が、たくさん含まれていた。それを見出し、受け継ぎ、自らの活動に生かして新たに展開していくこと、そこに「まちづくりサポート」の真価があるのだろう。

次年度、「市民提案型のまちづくり活動」助成は８年目を迎える。これまでこの助成で巣立っていったグループの活動成果の蓄積を踏まえ、制度や仕組みもよりバージョンアップが求められている。そのようなことを感じさせる成果発表会であった。皆様、お疲れ様でした！

多彩で豊かな活動成果がぞくぞくと！

【審査委員＝敬称略】

会　長　饗庭　　伸
（首都大学東京 助手）

副会長　鈴木　伸治
（関東学院大学 助教授）

委　員　金城　敦彦
（NPO法人大丸有エリアマネジメント協会事務局長）

山崎　範子
（地域誌編集人）

田畑　秀二
（江都天下祭研究会 神田倶楽部代表）

山本　　坦
（NPO法人東京セントラルパーク理事）

座間　　充
（千代田区まちづくり推進部長）

目次　（発表順）

＜２年目グループ＞
●文化発掘隊　2
●人が愉しむ道の研究　2
＜１年目グループ＞
●区有財産の活用を考える区民の会　2
●でんでんむし　3
●NPO法人i-Route準備会　3
●kandA夢Lab　3
●武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム　4
●千代田乃会文化部　4
●都心の水辺探訪クラブ　4
●CAPPS　5
●魁！神田塾　5
●フレンドシップちよだ　5
＜３年目グループ＞
●花・風の会　6
●ACIプロジェクト　6
●千代田区こども110番連絡会　7
●五十通り名店街　7
●東京を自転車で走る会　8
【審査員講評】　9
【交流会】　12
【お知らせ】　12
【賛助会員一覧】　12

1. こどもまちの記者・千代田世間遺産の発掘と情報発信
文化発掘隊【2 年目：助成金 29 万円】

今年は 14 名のこどもまちの記者の登録があり、「より身近なことを体験しながら学ぶ」ことをコンセプトに活動した。こどもの視点でまちを捉え直すのが「子目子目世間遺産」の意味。情報発信として『わくわくタイムス』を発行する。

①「銭湯に行こう」では、菖蒲湯など季節の薬湯のことなど苦労話を交えて伺った。②「丸の内不思議発見」で、ビルの地下にある田んぼや畑にびっくり。③「こども秘密基地」発見は路地の奥の落書きだらけの秘密基地が「安心して遊べる場所」であり、大学生から自由だけどルールもあることを教わる。地元のこどもたちともいっしょにゲームで遊んだ。

④「神田川クルージング」は、「都心の水辺探訪クラブ」との協働。自分たちでゴムボートを膨らませて手で漕いだ。水の深さも測ったり、初めての体験だった。⑤「祭りだ！ワッショイ」では、日比谷公園で開催の「大江戸天下祭り」を取材。神輿や山車など職人さんの技や江戸以来の歴史文化を大切にしていることを知った。

⑥「そうだ！つくばエクスプレスに行こう」では、開業したつくばエクスプレスを取材。写真を撮ったり、運転司令室の見学や駅長さんの話を聞く。⑦「日比谷公園を探検してみよう」は、管理事務所で取材。日本最古の洋式庭園で、江戸時代の大名屋敷の跡だと知った。⑧「じしん・かみなり・かじ・おやじ」では麹町消防署を取材、若い署員の話を聞いた。

Q) 次年度はこどもたちはどんなことに興味があるのか？
A) 大使館や皇居に行きたいという声がある。
Q) 来年以降の資金はどうするのか？
A) 印刷費などの援助を企業にもお願いしたい。「世間遺産」をどう進化、深化させるかが課題だと考えている。

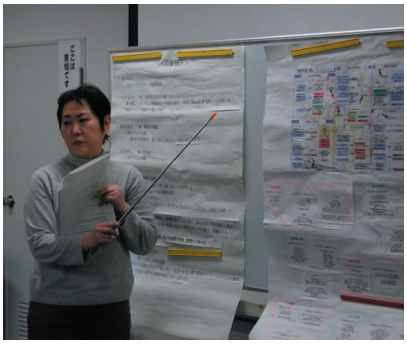
2. 放射 27 号線の道づくりの研究
人が愉しむ道の研究【2 回目：助成金 28 万円】

今年度は、中央通りを麹町から 200m に限って活動した。グループを 3 つに分け、公園、広場、道全体とをそれぞれ担当。「麹町子どもの広場」の再整備へ提案し、ユリノキを植えることや不潔であった砂場、水景の撤去、花壇やベンチの設置などを実現した。広場には住民が楽しめるような付加価値を付けるために利用者の希望をアンケート調査した。活動を知らせるよい機会になったと思う。ベルギー大使館では、アンケートを英訳して協力してくれ、大使にも会い、ご意見を伺えた。

立体模型と平面図の作成では、基本的に花やエンジュの樹を植え、茂みの中を人が歩けるように道を蛇行させてポケットパークを置いた。来年も引き続き造っていきたい。できるだけ有る物を利用したので、助成金を少し返還できることになった。住民、企業、自治体、町会との交流が協働活動により達成できた。今後は中央通り全体へ活動を広げたい。

Q) 住民への活動の広がりについて、展望はあるか？
A) イトーヨーカ堂の緑の会や町会とも協力し、市民の参加はアダプト制度を活用して運営を考えていく。花や樹木の手入れや、やがては桜を植えて、平成千代田の桜並木を実現したい。
Q) 活動のスポットを絞ったのが良かった。継続するのが大切で、市民と行政で共に協力し、27 号中央通り全体の活動にしていきたい。これからも皆さんの提案を期待している。
A) 番町小学校も協力してくれ、感激した。今後はアンケートの結果を受けて、広場にレストランを提案していく。
Q) 禁煙や不法駐車の問題にも協力をお願いする。
A) 働きかければ応えてくれることに感銘を受けた。弱者にも安全で、人が楽しく交流できる空間や通りを実現していきたい。

3. 千代田区の区有財産の活用を考える
区有地活用を考える区民の会【2 回目：助成金 20 万円】



会の目的を果たすためのパンフレット作りが一番の成果だった。それを使って区民の方に区有地の存在を知ってもらうことができた。具体的なことが分かるようにとのご指摘があったので、分かりやすく見やすいチラシも作って挟んだ。

2 回のシンポジウム『よみがえれわがまち 廃から夢へ』を開き、2 回目はこのサポートの卒業生でもある杉山昇さん (NPO 法人、コーポラティブ方式でコミュニティ再建に支援) を講師に講演会。その時ワークショップ「こうだったらいいな！廃校利用」を行った。区内 5 か所に分かれ、カードを使い、地域について希望のカードを選び､各地域のイメージを考えた。

さらに、各地域の話し合いの結果を発表、質問を受けて突っ込んだ議論をした。まだまだ知られていない区有地の存在と有効活用法を実態を踏まえて伝えていきたい。3 回目のイベントも検討中。自分たちの町を考えている地域の人、町会、学生たちと出会い、関われたことはとても意義があった。

Q) パンフはよかったが、区全体の区有地について考えているか？また住民との交流はもてたか？いろんな人たちと出会ってほしい。
A) 地元の各小学校や町会の方からお話を聞いた。若い人の考えも知った。
Q) 活動の結果を区の方へは何か報告をしたのか？
A) まだ結果が雑然としているので、整理してから集約して区へ報告する方がよいと思っている。
Q) できるだけ早く提言するほうがいいし、あまり決まってからでないほうがいいと思う。区の受け止め方も難しいので。
Q) この問題については、区の方でも、昨年に各地区毎に報告が出ているので、参考にされたらよいと思う。

4. 神田に渡そう『でんでん橋』～電大と神田をつなぐ橋～
でんでんむし【1 回目：助成金 23 万円】

電機大学の人たちに神田を知ってもらい、地元のひとにも電大を知ってもらう目的で 7 つのことを実行。①でんでん神田交流会。学生と地域の人とで 50 人規模の交流集会を開く。②「でんでん通貨」の発行。地元 8 店舗の協力で実現した。③「でんでん灯」の製作・設置。電大の学園祭錦祭に人を募って提灯を作り、中の絵や文字は小学生や在勤の人にも書いてもらった。2 週間、計 29 個大学周辺に飾った。④「錦祭でんでんツアー」子どもたちを招待し、一緒に錦祭会場を回った。

⑤電大ギャラリー　～子どものアート～。10 月の「まち子ども美術館 in 神田」(子どもと一緒にデザインしよう会主催) の絵を借りて再展示。子どもたちと合作の横断幕を張り出す。

⑥地域発掘情報誌「錦町」の制作。「五十通り名店会」と協働で地域密着型の情報誌を作った。⑦学生まちづくり学会 2005 にパネリストとして参加。他に小学校の餅つき大会や神田雪だるまフェア、地元の町会例会や夜警に参加した。

Q) 地域通貨の実施規模は？店舗の反応は？
A) 商店を絞ったのがよかった。広告も入るようになった。
Q) 大学の理解は？
A) 電大の学部長賞を受けた。いずれ援助も得られると思う。
Q) 学生には卒業に伴い、メンバーの交代が必ずくる。そこをなんとか次年度につなげていってほしい。
Q) 仮に助成金がなくてもやれるように、不足分をどうするか考えて、継続して活動する自信をもって下さい。
A) 地域の町会や商店とのネットワークを大切に、協働で空き店舗を利用した活動を企画している。電大生に行ったアンケートでも、半数以上の人が「でんでんむし」を知っていた。まちづくりという概念を多少とも普及できたと思う。

5. 社会起業家育成のための学生による NPO インターンシップマップ作成
NPO 法人 i-Route 準備会【1 回目：助成金 18 万円】

中間成果発表会で発表したことは省略する。活動のテーマは大学と NPO の連携を基盤にまちづくりの一つとして、NPO インターンシップを促進し、NPO の準備を進める i-Route の設立。学生の NPO 理解を深め、将来リーダーとなる人材確保、まちづくりの担い手となる福祉等の社会起業家の育成に貢献する。そこで、区内の NPO インターンシップ実施状況をマッピングする。活動内容は、アンケートやヒヤリング、意見交換会を開き、成果を報告書としてまとめる。意見交換会では、NPO、企業、大学、学生などで、課題を解決する策を模索した。メリットやデメリット、成功例や失敗例などについても話し合う。以上の活動から、NPO インターンシップマップを作成し、ホームページに掲載。その現状を把握していただき、今後の参考にしてもらいたいと考えている。

Q)NPO 法人 i-Route 準備会はできたのか？まだ準備中か？また、来年の活動への展望はあるのか？
A)NPO 法人についていては認証待ちの状態。
Q) 理事長は学生か？
A) 学生で運営。今後の活動は報告書を作成し、協力してくれた NPO などに提供してインターンシップの方法を提言する。
Q) 報告書だけでは読んでくれないのが実情だから、実質的な次の展開への工夫が必要だと思う。
Q) 千代田区には NPO はどのくらいあるのか？
A)400 以上の NPO がすでに存在し、活動している。
Q) 大学と NPO を繋ぐことにはまちづくりとしての可能性を感じる。来年度は具体的な活動を展開してほしい。
A) 今年は意見交換会や交流会がメインだったが、そのネットワークの強化と、学生を主体に大学と NPO とをつなげる。

6. 神田でつながる・つくる・つたえる
kandA 夢 Lab【1 回目：助成金 25 万円】

テーマは神田の夢がコラボレーションする、という意味の「kandA 夢 Lab」。神田に対する学生の夢を伝えたい。夏と春、地域の人と共に、神田設計作品展と地域イベントの合作「夢祭 06」を開催する。学生と地域の人の夢が合わさり、皆で神田の未来像を描くイベント。06 年 3 月 18 ～ 21 日、現在廃校の千代田区立今川中学校で、①建築家を招いての講評会、②地域の方々を招いての講評会「みんなの夢発表会」、③神田の子どもたちを招いて「おもちゃハウスでまちをつくろう」など、学生とのイベントを行う。④神田の職人さんたちを招いて講演や体験会を開き、活動の集大成をする。活動が数年継続できたら、ユメラボの本も作りたいと考えている。

Q) 前回に地元と密着した活動を提言したが、町会や地域団体との交流はできたのか？これからはどうするのか？
A) 夏には神田の青年会や連合町会とのつながりができた。イベントにより、交流が広がっていくと思う。
Q) 中部町会に対しては普段の活動では何をするのか？
A) イベントの他にもいつもは火の用心などに参加している。
Q) 神田だけでなく麹町とか千代田区内の他の地域も、将来は視野に入れているのだろうか？
A) ある程度、神田が済めば、区全体を考えていく。
Q) 区も市民活動に対応しているので、この会が核になって他の地域にも活動をぜひ広めていってほしいと願っている。
Q) 各地で、地域活動をテーマにした論文を公募したりしている。共通のテーマを基に学生と地域の対話を図ってはどうか？
A) 機会があれば、いずれは、ぜひやっていきたい。現在、テンプル大学などとも協同で活動している。

7. すずらん通りのコミュニケーションデザイン

武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム【1 回目：助成金 5 万円】

神田すずらん通りの町の魅力をより多くの人と共に考えていくことで、まちづくりをしていければと活動を始めた。観察すると、すずらん通りには歳月を経た美しさ、内側から滲み出るような魅力がある。その通りの色彩を身近に感じて、楽しんでもらうために、この通りの建築物の色をクレヨンにしてみた。それが「神田すずらん通り 12 色クレヨン」の制作。

次に、路上の自転車、バイクの駐輪についての活動。2005 年 10 月 1 日にクリーンアップデイとして、自転車やバイクの減少した通りを写真に収めるイベントを開く。事前にビラを配り呼びかけたが、1 回目の活動では成果は得られず、駐輪問題の難しさを痛感。また「神田神保町フェスティバル」では、クレヨン作りとお絵描きのイベントを開催する。約 200 人の方にぬり絵を、約 100 人の方にクレヨン作りを体験してもらった。11 月 19 日には、明治大学で神田の景観を考えるフォーラムに参加した。イベントの様子の説明や子どもたちの作品の展示などをし、他大学や他の団体と交流を図った。1 月は地元の商店街理事会で活動のプレゼンをし、今後の方針や他の団体との協力について話合った。すずらん通りの景観について多くの人とディスカッションを重ねて企画、実行し、工夫してきた。

Q) クレヨンは、資金作りのために商品化してはどうか？
A) 理事会に配ったがまだそこまではアプローチしていない。
Q) 江戸時代の色は多様だが、すずらん通りの色の特色は？
A) まちそのものの雰囲気があり、中間色の茶色が多い。
Q) 駐輪問題の活動はすずらん通りに限ってやるのか？
A) 駐輪自転車は店の客数を表すので、景観を壊さずに自転車が倒れず、整然と駐輪できる装置ができるといいと思う。

8. 素敵に歳を重ねよう

千代田乃会 文化部【1 回目：助成金 6 万円】

残りの人生を楽しく生きようというのがテーマ。会員は少ないが、月に 50 回、年に 500 回ほどの訪問活動でお話相手を務めている。高齢者同士でお話しているので喜ばれている。寂しい生活をしている人も、表情が明るくなり、中には仲間になりたいと言って手伝ってくれる人も出てきた。

2 月から、ボランティアセンターの依頼で、「微笑みプラザ岩本町」へ週に 1 回訪問することになった。軽い認知症の方や一般のデイサービスのお年寄りとゲームをしたりしている。会員自身が生き甲斐を感じており、今後も続けたいと思う。

私たちは全員が被爆や戦争体験者で、戦争の記憶を風化させないために、来年度は平和運動を加えたいと思っている。

Q)「子ども 110 番」グループと連携して参考になったというのは、どのようなことか？
A) 情報の収集に苦しんでいたので、「子ども 110 番」の方に相談してよいご意見をうかがえた。おかげさまでボランティアセンターが協力してくれて、安心している。
Q) 今後、自己負担が大変とのことだが、助成によって活動が広がるのか？
A) 助成金のおかげで講演会が開け、地域のご理解が得られた。
Q) 助成としては資金だけでなく、お話を聞く場所の提供は必要ないか？たとえば空き店舗を休日に開放してもらうとか。
A) 交通の便のよい地下鉄の駅に近い所が便利だし、場所の心配はない。平日の方が活動しやすいので、今の場所がよい。
また、来年の平和イベント 60 周年で、戦争の悲惨さや愚かさを次の世代に伝え、若い人たちにも被爆体験を語り継ぎたい。語り部の役を活動の一部に加えるのはどうだろうか？
Q) それは来年の公開審査会にぜひ応募して下さい。

9. 神田川・日本橋川の魅力再発見

都心の水辺探訪クラブ【1 回目：助成金 22 万円】

かつて江戸の中心として舟運が栄えた神田川を選び、一般の人に水辺に親しんでもらい、都心の水辺の環境について考えるきっかけを提供する。8 月、クラブ有志と文化発掘隊の有志で神田川を三崎橋から最下流の柳橋まで踏査。水辺の危険な所、魅力的な場所を調査し、川の歴史に詳しい方にガイドを依頼した。10 月は、文化発掘隊の子どもたちをボートに乗せて、浅草橋から聖橋まで往復 3 キロを探訪。感想などは『千代田わくわくタイムス』6 号に掲載された。

10 月、アートイベント「セントラルイースト東京」の中でボートツアーを行う。20 代の若者たち 20 名が乗船、「多摩川のように四季を感じられるとよい」、「川の汚れ、悪臭に気づいた」など生活と水のつながりの重要性について、前向きな意見が出た。1 /31 と 2/11 には神田川沿いを有志で歩き、川沿いの史跡やお店を探した。「神田川利用案内」をまとめ、船着場を中心に徒歩 500m 以内を地図に、五つ星で評価して記す。

ゴミ運搬船の運行や防災船着場の管理状況の事情で、クルージングは日曜日に開催。屋形舟業者の協力を得たが、なかなか桟橋を借りられないのが現実。高齢者を乗せられないとか地元との協力が困難など課題も多いが、水質、景観、周辺環境の改善に貢献したい。子どもの環境教育にも役立てたいと思う。

Q) 川の魅力と課題を知り、改善への指摘をまとめてほしい。
A) 船着場の使い勝手などはまとめ、報告書にする。クルージングとまち歩きを合わせたイベントを企画している。
Q) 防災船着場は民間団体には貸せないそうだが、このサポートを受けている団体なら可能ではないか？(区への質問)
A(区の委員より) 直接が無理なら私どもへ言って下さい。

10. 千代田区公園アダプト制度を区民の立場からサポート
CAPPS(キャップス)【1 回目：助成金 34 万円】

昨年 10 月に千代田区との間で区の公園全般の美化イベント活動が可能となる覚書を締結した。11 月 29 日に第 1 回常盤橋公園公開清掃を朝 7 時 30 分から 1 時間実施。中央枝垂れ桜サークル内に佐藤工業と協賛のチューリップの球根 400 個を植えた。12 月 14 日公開講座「都市と公園」の第 1 回を開催。日大理工学部教授の伊東孝教授の講演会「歴史遺産と常盤橋公園」を開き、約 50 名の参加者を得る。3 回連続講座の第 2 回はパネルディスカッション「日本橋川と常盤橋公園」を 3 月 10 日に開く。中央区との協働も必要で月刊『日本橋』発行人の上林武人さん、千代田区四番町歴史民族資料館学芸員の高木知己さんと伊東孝先生をパネラーとした。

三番目の活動として、「ちよだ花の道」マップをカンダユメラボの方々と制作、「ちよだパークマップ」も制作を請け負っていただく。四番目は、千代田区の公園と花と緑の総合ガイドとして CAPPS ホームページを作成中。充実させていきたい。

Q) 日本橋から常盤橋、さらに大手門へと続くと江戸城にまで至る。まさに江戸文化の見直しになると期待する。広範囲で多様な活動だが会員は何人か？ぜひ大きくして繋げてほしい。

A) 現在のところ 10 人くらいでやっている。サポートの他団体のイベントと重ならないよう情報の共有、交流をしたい。

Q) 常盤橋は文化財指定史跡で、江戸の資産でもある。発掘して評価した成果は大きい。区の観光資源としても大事だ。補修について文化庁にまで働きかける活動にもなるとうれしい。

Q) アダプト制度があったことが、行政とも協力関係ができた要因か？他の団体も参考になると思うがどうか。

A) 双方の思いをつなぐ制度がないと信頼も生まれない。

11. 親子一貫 神田っ子育成企画　第 1 章
魁（さきがけ）！神田塾【1 回目：助成金 23 万円】

子どもと親と学生が交流して地域の活性化を図り、共に生きる意識や神田への愛着をもつような神田っ子を育てる。毎月 2 回の企画会議、月に 1 度のイベントを目指した。

①「親子で神田の銭湯体験」5 月の菖蒲湯の日に、子どもの日特別講座を開く。銭湯に入るときのルールや入り方を知り、親子で風呂に入って語り合った。(参加者 50 名)　②「親子中華料理教室」神田在住の中国人の家庭で、実際に料理を教わる。

心にも体にも食が大切であることを伝え、親と子、親同士、食文化の日中交流にもなった。(参加者 15 名)　③「親子神田探検隊 その 1 ～老舗 vs アキバ～」では、神田まつやで蕎麦打ち体験・職人体験をする。来春移転の交通博物館で思い出づくりや秋葉原電気街で最先端の家電を体感し、遊んだ。(7 月、参加者 40 名)　④「同上その 2 ～お茶の水周辺の歴史巡り～」はニコライ堂、神田明神、天野屋などを見学し、神田の歴史、文化を感じた。(11 月 , 参加者 50 名)　⑤「親子で雪だるまづくり」で、神田雪だるまフェアに参加、38 チーム中 1 位となる。(1 月、参加者 20 名) 祖父母と親子三世代の交流もできた。応募者が多く、今後は登録制の検討も必要。「クイズを持ってまち巡り」なども行った。

Q) 町会の垣根はどう越えたのか？神田っ子は何人集まったか。

A) 千代田小学校とお茶の水小学校に声をかけ、いろんな町会に参加してもらった。子どもは 20 ～ 65 名くらい集まった。

Q) 有意義な活動なので、外にむけても発信しないのか？

A)「神田新聞」もまだ作成中だが、これから広げていく。

Q) 神田地区の子どもと他区の参加者との割合は？

A) 半々か少し地元が少ない。またやってほしいと言われた。

12. 地域に根ざした国際交流
フレンドシップちよだ【1 回目：助成金 11 万円】

1 年間の活動として、主に週末にイベントを開き、親子で参加できる内容のものを考えてやってきた。来年も 2 つの柱として、日本文化の紹介 (墨絵、三味線など) と各国の外国文化の紹介。外国人のなかには参加するだけでなく、講師として自国の文化をボランティアで紹介してくれる人も出てきた。

サポートの助成を受けたおかげで、ホームページも内容が充実してきた。日本語、英語、フランス語、ポルトガル語と広がっている。インドの方がいるのでヒンズー語でもという話も出ている。活動はなんとか予算内で収めることができた。

Q) 発表会の資料に「まちづくりとコミュニティー活動は何か違うと感じた」とあるが、どういうことか説明を。

A) これまでの発表で、審査委員から、私たちの活動が地域性に欠けると言われた。このサポートではどんな活動が求められているのか、まちづくり活動とは何か、よく分からなかった。

Q) 以前からやってきた活動のなかで、今年サポートのおかげでできた活動は何か？

A) ポスターを大きくカラーにしたり、ホームページを有料のサーバーにできたこと。参加者が 20 名以上となり、活動は広がった。ただ、広がればメンバーも増えているが、現在の定員制のままがよいのか考えている。

Q) 千代田区には外国人も多く、国際性の豊かな場所だと思う。友だちだけでやる活動でなく、外に働きかけて、ふだん体験できないことを新しく情報発信できれば、千代田区の PR にもなる。外国人の住みやすい千代田、日本人も知らない千代田の魅力を体験できる活動ならば地域性がないとは言えないと思う。

A) プールもある区民会館などを、近くに住んでいても知らない外国人も多く、それを知らせることになればうれしい。

13. 一人立て！花の銀行、人材育てて、人を呼ぶ
花・風の会【3 回目：助成金 27 万円】

1 年目、2 年目は、いかに花を咲かせようか苦心し、咲いたの、採られたのと大変だった。朝早く泥んこになりながら花の手入れをして自転車で帰るとき、パトカーににらまれたこともあった。でも、そんなことより何よりつらいことが起きた。これまで活動の拠点としてきた地域の三角公園が、今年 3 月でなくなってしまうことだ。

ともかく、3 年目の活動として今後もいかに花を植え続けられるかを考えた。球根を中心に植えて、毎年球根を増やし、その 3 分の 1 を返してもらう、「花の銀行」の仕組みを思いついた。また、希望者を募り街角の植栽スポットに植えてもらったり、児童館に球根を寄贈して植えてもらったりもした。

しかし、お年寄りは体力的にやはり無理があるようで、水やりも滞りがちで枯れたりする。また子どもたちは花の咲いた後にはあまり関心を示さなかった。そこで、マンション住人に相談すると、球根でも多年草、宿根草でもと、10 軒の人が引き受けてくれた。

まちの片隅にある小さな公園に春夏秋冬、花が咲き乱れていたのが、なくなるのはとても残念だ。近くの企業の人がボランティアで掃除をしていたが、花を見ながらやっていると仕事のいいアイディアが浮かぶと言ってくれた。そんな人たちや言葉に励まされて、なんとか今後も活動を続けていくつもりだ。

実際、花に肥料をやり、土づくりをしたり、植木の剪定をして太陽の光が花に多く射すようにしていると、それだけたくさんの花が咲き、実がみのることが分かってくる。植物は、あらゆる障害を乗り越えて美しく咲き、香る。そんなことに感動して、万物に感謝したくなる。こうしたことに気づかされたのもこのサポートの活動のおかげだった。

Q)3 年間お疲れさま。「花の銀行」のための資金はどうなっているのか？やがて増えて戻ってくると聞いていたがどうなったのか？

A) 球根の貸倒れが多く、資金はいっこうに増えなかった。やはりお年寄りが多いので、だんだん活動が大変になってくる。

Q) 球根も心配だが、今後の活動の見通しは？

A) マンション住人の服飾家が布を花で染めたいと言ってくれた。隣のマンションにも手伝いに行ったりして、なんとか活動は頑張るつもりだ。

Q) まちを花でいっぱいにする活動がしぼまないようにと願うので、たとえば町内のラジオ体操の会などにも働きかけてはどうか？あの人たちは早寝早起きのようだから、花に関心も深いし、声をかければ、花の世話もしてくれるのではないか。諦めずに続けてほしい。

A) 声をかけたこともあり、手伝ってくれる人もいる。花を植えて、花と対話しながら育てることは、せちがらい世相の時代に人の心や精神を育てるものだと確信している。

子どもたちの教育にもいい影響があるにちがいないと思う。

14. Let's Enjoy Iidabashi
ACI プロジェクト【3 回目：助成金 30 万円】

2001 年 12 月に法政大学の学生を中心に設立して以来、住民、通勤者、学生などが「飯田橋地域を利用する人々の交流」を増やすことで人と人とのつながりをつくる。メンバーは現在、約 30 名。活動は主にイベントの企画と実施、商店街との協働、飯田橋 MAP 情報誌『ダバチズ』の発行、まちづくり勉強会への参加、他の地域を知るためのまちあるき (上野、谷根千、月島、三軒茶屋、人形町)、ホームページによる情報発信など。

今年度は、4 月のイベント「さくらアート」(桜をテーマにしたお絵描き大会) を外堀公園で開く。7 月は七夕イベントで企業の協力で「言の葉さらさら in 飯田橋」、12 月は商店街と共催の「元気出せ飯田橋まつり」を行った。これらは継続イベントなので質の向上を図った。

情報誌『ダバチズ』は 4 月、7 月、9 月、12 月の 4 回発行。新しい活動としては飯田橋の模型作りに取り組む。これまでに比べ他の地域や団体との活動が増え、幅が広がった。地域の人たちと学生との信頼関係が強くなったと確信する。これまでは話に行っても聞いてくれなかったのが、まちの人から、「何か企画してよ」と声がかかるようになった。

今後の活動資金は、大学が校外の活動にも助成金を出すという申し出があった。メンバーの会費と、イベント毎に助成をしてくれる企業があり、広告料も入るようになったので引き続き活動を継続していけると思う。方向としては、活動を広げていくより、飯田橋一本に絞っていこうと考えている。他企業との協力関係も深めて地域に根ざした活動をと願っている。

Q) 最初の審査会ではどうなることかと心配したが、目を見張るようなすばらしい活動になった。今後は後進の学生団体の活動の悩みを先輩として聞いてやってほしい。ほんとうのことを言うと、できることなら来年の活動の助成計画を今日の発表会で報告してほしかった。

Q) 卒業してからでも、様々な苦労を乗り越えてここまできた活動の結果や感想を、まとめて発信してくれるとありがたい。我々にも参考になる。

Q) 大学が社会に閉ざされたものではなく、学生が学問だけでなくまちの中に入って住民と共に活動し、卒業していくのは重要なことだと思う。『ダバチズ』が根を張ってネットが広がっているので、それを後輩につなげてほしい。

A)『ダバチズ』は創刊から 3 年で 10 号 (保存版を入れると 11 号)、総発行部数が 2 万枚を越えた。今後はホームページとのリンクも実現したい。配付場所の追加も考えている。

Q) 地元に愛されていたので活動拠点を飯田橋に持って、悩みもどんどん商店街の人に相談していけばいいと思う。

Q) 大学からの特別賞のようなものはないのか？

A) 職員の方には、会の存在や活動が知られてきたが、賞はなかった。イベントの知名度と参加者を増加させるためにも、PR は今後の課題。いっそう『ダバチズ』やホームページを活用する。

15. こどもをまもる電脳まちづくり
千代田区こども 110 番連絡会【3 回目:助成金 37 万円】

3 年間の活動の記録を冊子にするため、目下編集作業中で、詳しい報告はそれで示すことができると思う。初年度に掲げた会の目標は、(1) 子どもに危険な情報を素早く伝え、危害の発生を未然に防ぐ。(2) 子ども 110 番の家 (区内 2200 軒) との連携を深め、挨拶のできる街づくりをする。(3) 講習会等を通じて全区的な情報化に貢献する。(4) 日本の中心地に相応しい生活環境作りに寄与する。以上 4 つであった。

結果としては、「子ども 110 番」を中心として安全情報ネットワークのインフラは整備できた。保護者、行政、地域の各々の課題が明確になり、今後の活用の基礎を提供できたと思う。

サポートマネーはトータルで 106 万円を受けたが、1800 万円以上の資金がかかった計算になる。多くの方の無償の専門的な知識や活動で大きな資産を構築したと考えている。

この活動のおかげで学区を越えた意見交換ができ、フォーラムの開催で電脳の問題点を考え、認識を共有できた。携帯メールを求める保護者が想像以上に多かったが、ホームページを立ち上げ、区立 8 校の意見を取り入れて電脳環境は整備できたと思う。

私立の学校へもパンフレットを持って訪問して、いずれアクセスできるようになる見通しがたった。

活動を通して、やはり日頃からのフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションが最も大切だと実感した。そして一番大事なのは、防犯上「子どもたちに何も起こらない状況」を維持し続けること。そのためにこの活動を継続する必要がある。また安全マップはウェブ上でも有効なことが分かった。

Q) この活動で人と人とのコミュニケーションが増したと思うので、今後の活躍も期待する。区とも連携できるのか？

A) 区立 8 校のうち 6 校が各学校で子ども 110 番委員会を作り対応する方向がきまった。教育委員会では議題に出たが、予算が付かず、断念した。個人情報保護法との関連があり、難しい問題もあるが、平成 19 年に区の新庁舎に発足する「安心・安全まちづくり総合センター」構想には寄与できると思う。

Q) 今日の発表には結果と途中経過が混在してるが、今後の活動の予定を手短に話してほしい。

A) アンケートの結果、保護者は、パソコン、携帯電話、ファクシミリ、電話、と 4 つを使わないとだめだと分かった。親は情報を受けとるだけでは行動できないので、補助情報もいかに出すかを考えていく。

Q) 行政にとっても防犯、防災が貴重な対策になるが、まだシステムが行政とネットワークしないようだ。次年度はできるのか？たとえば、防災センターとのタイアップなどは可能か？

A) 子どもの安全情報の流し方を考え、携帯に気づく音楽をセンターで放送したりする案を考えている。各校の子ども 110 番委員会ともリンクしたい。IT 委員会も各校に根付いたので、各校とのネットワークをさらに強めて、できることからやっていくつもりだ。

16. 小さな商店集合体の街なかでの存在必要性を探る
五十通り名店会【3 回目：助成金 28 万円】

まちの今後のあり方、小さな商店のあり方を考えて活動してきた 3 年間だった。かつては東京一の繁華街だった五十通りがさびれて何もなかったところから始めた活動。各店舗から話を聞いて、16 店舗のマップを作ったが、その半分の店が移転してしまった。活性化のために何をしたらいいのか悩みながら、まるでジェットコースターに乗ったように前後左右に揺れながらやってきた、というのが実感。

饗庭会長から、「もう一度、各店舗の話を聞いてみては？」とアドバイスを受け、今年は錦町、小川町を見直そうと、まずは回ってみた。錦町の電機大学の学生さんの団体「でんでんむし」と出会い、協働した。「でんでん通貨」も五十通りの店の協力を受けてやったし、電大の文化祭にはお店が協力した。もっと錦町を知ってもらおうと、学生さんといっしょに創った冊子『錦町』が完成した。

町に縁の深い漫才の内海桂子師匠の題字、町会の協力で各企業からも広告を貰い、地域に密着した情報誌が生まれた。「まちなかアート」の紹介や住民のインタビュー、学生と「頭」の対談、思い出のエッセイ等に加え、飲食店の紹介、マップ、働く人百人のアンケートなど、盛り沢山の内容となる。活動した仲間の今年の成果だ。それも多くの人たちの協力があってのことだった。

Q)「でんでんむし」との出会いはサポートか？

A) 電大とは以前から付き合いがあって、100 周年記念で学生が地域に派遣された。私をたづねてきてくれたのが始まり。

Q) 試行錯誤の活動だったが、3 年目についに、とてもよい冊子ができたと思う。私もうれしい。

A) おかげさまです。

ありがとうございました。

まちづくりに関して全くの素人のそば屋の息子が時間の合間をぬって店補や企業をまわることは勇気のいる大変なことだった。同じ思いの人が少なくて活動が前に進まず、やめようかと思ったこともあった。その度に逃げまいと頑張った。

Q) 店が入れ代わる根本的な理由と解決策はあるのか？

A) 神田は土日が人がいないので商売にならないのに、相変わらず家賃が高い。空きビルやマンションでは客が来ないし、ランチも学生はなかなかまちの店までは行かない。でも、学生が中心に動くことで新しい解決が生まれると思う。

たとえ地元に大きなビルができてもだめで、これからは古い店でも広告宣伝が必要ではないか。マスコミに取り上げられたりすると客が来るようになるわけだから。

Q) 来年度、地域誌の続号は出せそうか？資金は大丈夫か。

A) 電大の助成と広告の申し出で、学生が継いでくれれば、可能だと思う。これからも電大、企業、町会と連携して、通りの繁栄に努力していくつもりだ。

17. 千代田区発、都心を自転車で楽しむための仕組みづくり
東京を自転車で走る会【3 回目：助成金 34 万円】

中間報告後の活動を中心に発表する。まず、東京を自転車で走る会としてのルートづくり、千代田区発観光自転車コースで新たに新宿・山の手・七福神コースを開発した。これまでの谷根千コース、佃・お台場コース、本所・深川コースと合わせて千代田区周辺を回る 4 つのコースが完成したことになる。

2 番目の活動として、「自転車観光案内人制度」については自転車なので特に安全走行対策の勉強会を講師を招いて開いた(計 2 回)。5 人～ 30 人の集団走行の取組みについて最終報告書を 3 月末にまとめる。

また、中間発表会でも報告したが、第 4 回江戸ポタリングは 10 月 23 日に実施、皇居を出発地に 3 コース(谷根千コース、お台場コース、港区コース)を案内した。参加者 30 人。

3 番目は、昨年出した自転車走行に関する『提案＋事例集』の内容を実現するための活動。国(国土交通省)、都(産業労働局の協力で建設局)、区(道路公園課)の行政担当者に相談する。丸の内仲通りを走る場合や霞が関、皇居一周などについて質問する。担当者から千鳥が淵の四季の道を整備しているので新たにコースに加えてはどうか、などの提案もあった。

今後もすずらん通りや 27 号線五十通りの駐輪問題で、他の団体とも協力して商店街にしゃれた駐輪スポットを提案するなど行政に働きかけて活動を続けたい。

この 3 年間で学ぶことが多く、自分たちの活動を見直して成果をまとめることができたのもサポートのおかげだった。行政の担当者の意見を聞けて課題も見え、提案の実現に向けて協力していきたい。

Q) 報告書はどう使う予定なのか？
A) 200 部刷って区、都、国公省へ配付する。ルートマップはネット上でも可能で 3 月～ 4 月には完成する。それをダウンロードできるようにして広く発信したい。さらに広告を入れて冊子にし、それに広告を載せ、今後は助成より広告収入を基盤に活動していきたい。

Q)3 年間で自転車文化の広がりは実現したか？
A) 三鷹市にも会ができたし、自転車に対する見方も変わっている。問題の放置自転車対策だけでなく、むしろ商店街の活性化につなげる必要がある。

実際に、丸ビルや銀座、日本橋にしても、新しくできる大きなビル街には駐輪場がないのが現状で残念だ。しゃれたスポットに、きれいに駐輪することができれば、自転車は街の美化にも活かされるはずだ。

Q) 今後の活動について、具体的に考えていることは？
A) この活動で得た成果をベースに 23 区全体へ活動の展開を図っていきたい。マップ作成、人材育成、スペースの活用への提案など、どの区にも共通して有効だと考える。

自転車は様々な可能性を秘めている。同時に課題もあり、自転車を中心にした環境の改善に、楽しく活動を続け、少しでも成果を上げていきたい。

サポート賞の結果

恒例により、審査委員 7 票と各グループ 1 票づつの 16 票（都合により 1 グループ棄権）の合計 23 票で、サポート賞を選定した。1 年間の活動成果を発表し合った仲間同士で、最も顕著な成果をあげたグループ一つに投票した。（自らのグループへの投票はなし）

投票結果は以下の通りである。

- 6 票：「CAPPS」
- 4 票：「武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム」
- 3 票：「こども 110 番連絡会」、「五十通り名店会」
- 2 票：「ACI プロジェクト」、「kandA 夢 Lab」
- 1 票:「花･風の会」、「東京を自転車で走る会」、「でんでんむし」

山崎委員より表彰を受ける「CAPPS」岡田代表

最も多い支持を集めたのは「CAPPS(キャップス)」であった。常盤橋を中心に、区境を超えた広範で勢力的な活動がより多くの共感を呼んだ。「CAPPS」は今回 2 年目の活動であり、3 年目の活動での一層の飛躍が期待される。

次点は、今回 1 年目の「武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム」であった。最低額の助成金ではあったが「神田すずらん通り 12 色クレヨン」は、豊かで確かな説得力で会場にインパクトを与えた。

今後の継続的な活動に大きな期待が寄せられた。

「武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム」による**「神田すずらん通りで見つけた 12**

講 評

【饗庭会長　総評】

皆さま、長い間お疲れさまでした。

今日、実は初めて日曜日にこの発表会を開いたわけです。朝、僕は神保町の駅から歩いてきたのですが、異常なくらい人がいなくて、異常なくらい静かな街だなと、改めて実感しました。

しかし、この会場にやってきますと、これだけの人たちがここにいて、次から次へとすごくおもしろい活動の発表があって、外も天気はいいけれど、この中も熱気にあふれていて、これは大事にしたいと思いました。実にこの空間が千代田らしさを表していると思ったのです。

それで、こういう場所がどういうふうにして成立するかということを、少しだけ皆さんに考えておいていただきたいのです。

だいたい、毎年 400 万円から 500 万円くらいのお金が出ます。各企業からの浄財も含め、それを区がお金を出すというときは、ふつうもっと固い人たちが審査するのですが、あえて、おもしろい活動を引き出そうということで、ちょっと変わった人を審査委員に引っ張り出して、特に変わった人も並べています (笑) 。

山本さんなどは、僕はすでに 3 年間いっしょなのですが、いまだに読めないでいます (笑)。

冗談はさておき、いろいろ活動している人たちは、そう言っては失礼かもしれませんが、世の中には五万といます。その中でもちょっと変わったことや新しいことをしようという人たちが、このサポートに集まっていらっしゃって、それで、お互いやりとりしている。そこに少しずつの活動資金をお出ししているという形になっています。

区ではすごく大きな「小さな社会実験」ということをずっとやってきているのですが、これを、このままでいいのかどうか、もっとお金が必要だとか、いや、少しずつでも広くお金を出した方がいいとか、いろんな議論があります。

来年からはサポート事業の仕組みも少しずつ変えていこうということになるのですが、やはり、この部屋の大きさのスケール感といいますか、この部屋の大きさに収まる中でやりとりして、うまく物事が決まっていくということを、僕はすごく大事にしたいなと思っています。

卒業される方もいらっしゃいますし、もうサポートはたくさんだよと言う方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう方たちが、ここから出て、次にやらなくてはならないことというのは、この小さな空間のなかで審査委員を唸らせるような活動だけではなく、広く社会を変える、そういう団体の活動をしていただきたいと考えています。

これまで 7 回のサポート事業をやっていますが、その団体の活動の中で、うまく社会を変えていると言える人たちは、結局、一握り、二握りの方たちです。

それで、これから皆さんに、先ずはここでの活動をやり遂げてから、次には外側の人に働きかけて、広く社会を変えていくようなことを目指して、3 年目からでもいいのですが、意識して活動していっていただければと思います。

難しいことをお願いしましたが、また、来年もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

どうも、お疲れさまでした。

【鈴木副会長】

私は 1 年目でしたので、皆さんの活動に対して的確にコメントできたかどうか、あまり自信がなかったのですが、参加してみて非常に勉強になりました。

いろんな形の活動があって、それぞれ皆さんがいろんな貢献をされて、新しい発見をされている。その中から一つ選びなさいと言われると、どれか選択しないといけないわけですが、それぞれ部門賞みたいなものがあればいいなと、思うほどでした。たとえば、目立たないけれど大事な活動等に、いっぱい先ほどの特別賞の票が入っていました。

今日、発表された活動グループにはそれぞれに意義があると感じております。2 年目以降もぜひ頑張ってほしいと思います。

私自身が、地域に入って、いろいろな形でのまちづくりの活動などもやっております。変更したり、失敗したり、繰り返していますが、よく、学生などに言っておりますのは、「3 つのチョット」が必要だということです。

それは、①チョットした気配り。地元に入って行くときには、チョット挨拶するとか、チョット一声かけておくとかがすごく大事です。それをやっておかないと、後で大きなしっぺ返しをくらったりする。

②チョットしたつながりを大事にする。今回もグループ間で、いろいろ交流されている姿を見て、すごく勉強になりましたが、それも非常に大事なことです。

③は、チョットした楽しさです。楽しくないと活動というのは継続していけません。その辺を大事にしないといけない。だけど何もかもやろうとすると結構大変です。気配りばっかりしていると気が疲れちゃいますし、つながりばっかり重視していると、自分たちの活動の主体性がなくなったりします。そして楽しいことばかりやっていても、他人から見ると自己満足ではないかと思われます。

その意味では、今回活動されてきたグループ、特に 3 年目に入った方々は、それぞれにこの「3 つのチョット」がしっかり整っていて、我々から見ても、活動のお手本になると思いました。

次年度以降も、1 年目 2 年目の方々は、ますます活動していただいて、活動する楽しさを味わい、活動を通して千代田区に貢献したり、いろんな発見を通して、意義のある活動を続けていただきたいと思います。

ありがとうございした。

【田畑委員】

皆さま、お疲れさまでした。私も審査委員が４年目で、今年、卒業ということです。

今日、この会場で、３回目のグループの皆さまが、サポート賞の投票の結果、全グループが選ばれたということは、やはりそれだけ３年間という時間を積み重ねて苦労をされ、しかも発表も上手くなり、我々に対するアピールをきちんとされ、我々もそれに同意しながら、様々な意見を勝手に言わせていただき、その結果、このようなすばらしい会になったのではないかと思います。

それにしましても、初参加のグループが、サポート賞においてこのように相当の票をもらっています。１年目でこれだけ評価される活動をするという、これは今までにあまりなかったことではないかと思います。非常に有意義な活動がどんどん広がっているという感じで、今日はとても楽しませていただきました。

私も「神田倶楽部」という団体でいまだに活動しておりますが、やはり活動を継続させることが重要で、今回参加のチームがこれからまだまだ発展していくだろうと思います。

１回目の方も、２回目の方もこれからどんどん継続していくことによって活動が広がり、発展していくことがあると思います。

ぜひ、これからも頑張っていただきたいです。

本日はありがとうございました。

【山本委員】

皆さま、本日はどうもありがとうございました。

たまたま昨日、上智大学で文部科学省の「生涯学習まちづくりフォーラム」というのがございまして、参加いたしました。そこでいろいろな話を聞いた時に、こういう千代田区のように公開審査で、いろんな学生さんやまちの方が自ら進んで参加し、発表するということが、どうも他の人の話を聞くかぎりでは、ないように見受けられました。要するに、まだ、行政が主導して、まちづくりをやるということがほとんどのようでした。それで私は、千代田区の財団法人「まちみらい千代田」の存在とこの公開審査会方式について宣伝をして参りました。

皆さまは、各グループなりに、いろんな面で活動されていて、学生の方もまちの人と係わり合いながら、最初は離れて活動していたのが、うまいぐあいに融合されてまちづくりを行うようになりました。最初は、正直いいまして、このグループはどうなるのだろうと心配していたのですが、やはり、まちと共に成長していくという例がすごく見られて、とてもよかったと思います。

千代田区の行政の方も、もしかするとうるさいおばさんに見えるかもしれないのですが、こちらが出向いて「ハイ今日は、ごめんよ」と言って入ってみると、お互いに垣根がとれて、いわばバリアフリーになっていました。これはいいことだし、どんどん活動を続けていきたいと思いますし、活動は継続することに非常に意義があるのです。ですから、一発単発で大きいことをやるよりも、小さくてもちょろちょろとでも活動を継続していただいて、区の方にもご協力いただき、この活動のシステムをもっと発展させていきたいと思います。

私も審査委員は３年目になりまして、卒業になるのですが、今度は大学院の方へでも入れていただけるのでしょうか、居残りになります。卒業しません、よろしくお願いいたします。

【金城委員】

私は、審査委員１年目でして、とても楽しくて勉強になりました。地元の方のグループだったり、学生さん中心のグループだったり、分かれて活動しているように見受けられましたが、時間が経つにつれて、だんだん地元の方と学生さんたちとが、いっしょに活動するようになっていったり、２年目、３年目と、それが深まっていくのを見ていて、とてもすばらしいと思い、印象に残りました。

学生さんのグループも多いし、初参加のグループもいますが、学生さんは卒業と共に、だんだん代替わりしていかないとなりませんから、それをうまく後輩の方につなげていけるといいなと思います。

また、卒業された、サポートのOG、OBの方が自分たちの経験を後輩に伝えて、いっしょにやりながら活かせていけたらいいと考えております。

「フレンドシップちよだ」のグループの方だったと思いますが、お互いの自国の文化の紹介を聞き手として参加しておられた方が、今度は話し手として、進んでボランティアで講師を務めて下さったというエピソードがありました。

はじめは受け身だった活動が積極的に参加することで、しだいに活動の幅が広がっていったり、密度が濃くなっていくのはとてもすばらしいことです。初参加の方も、２年目の方もおられますが、また来年度もこの活動を幅広く続けていってくださったら、私としてはとてもうれしく思います。

【山崎委員】

どうもお疲れさまでした。

私は今回３回目の審査委員を務めましたが、特に卒業される団体は１回目から見て参りました。立派に活動を仕上げて卒業されますことをうれしく思います。

また、アンケートの最後に記されていたことですが、「サポート事業のおかげで他の団体と交流できたことが、お金の助成を受けた経済的な援助以上によかった。

サポートのおかげで楽しく活動できた」などと書いて下さったグループがたくさんあったことも、とてもうれしかったです。

このような公開の場で審査するからこそ皆さんにお会いできたわけで、このような場がなければ、お互いに触れ合うことも少ないと思います。こういう発表会や審査会で、皆さんの顔を見て、直接説明を聞けたことが私にとってもよい体験でした。そして、説明というのは上手ければいいというわけでもないということもよく分かりました。

今回、特に感じたのは、若い方の発表や説明がとてもていねいで、堂々としていて、分かりやすく、私も負けてはいられない、という気がいたしました。というか、これだけきちんと礼儀正しい青年がこんなにいるということに感動したのです。さすがは千代田区だと思います。

実は私も自分の活動で、助成を受けていることがあって、領収書の金額と資料代の金額が合わないから、あさって説明に来いと言われております。そういう細かいことを言ってるようでは、いい活動はできないと、私は思いますので(笑)、できれば、千代田区のようにやってほしいと、きょうはほんとうに思いました。

今回で私も審査委員は卒業ですが、今後もどうか皆さん頑張って下さい。どうも、ありがとうございました。

【座間委員】

各委員の皆さまのお話を聞いておりすと、だんだんネタも尽きてくるのですが、私は、少し違う立場から感想を申し上げたいと思います。

講評のなかでも、何度かお話が出てきましたが、まちづくりというのは、ほんとうに行政だけでできるものではありません。皆さんの活動が今日はここで発表されましたが、そういうものが毎年毎年出て、それらを積み重ねていって、はじめてよいまちづくりが可能になります。

そういう意味では行政が物を造って管理していく、そういうまちづくりの時代は終わったと思います。市民の皆さんと手を携えてやっていく、金城さんも大手町、丸の内の方でやっておられますが、官と民のパートナーシップ、「PPP」という言葉を皆さんご存じかと思いますが、そういう考え方をもってこれからは区も行政を見直していかなくてはいけません。そういう時代だと思います。そういう意味では、皆さま方の智恵を具体化して、実現していく時代が来ております。まさしく、皆さま方がまちづくりの中心になっていくわけです。区の方もいろいろ勉強しながらやっております。今、秋葉原についてはご存じかと思いますが、再開発がいよいよ立ち上がりまして、UDX というビルが３月にはオープンします。

とにかく、あそこの街はベースとしてはできてくる。しかし、それだけではまちは発展しないのです。

それをいかに地域として運営していくかということで、実は区としては、あそこで TMO(タウンマネジメント組織）の手法を用いて、地域の皆さんの参加のもとに、地域の福祉施設や公園、緑などを運営、管理していただく。そこでは新しい事業も行ってもらいたい。そういう考え方で、いま地元で勉強会をしております。それは区が発案してやっているわけですが、そういう形で区は皆さんと協力していこうと秋葉原に関わっております。

今回、このサポートは、それ以前の皆さま方の発意でこういう場ができているわけです。いろんなアイディアが出ていますので今後、行政とうまく連携をして、やっていっていただければと思っております。

このサポートも、３年生の卒業生を今後どういう形で、まちづくりに参加してもらうか、あるいは行政とのパートナーシップをとっていくかということが大事であると思っています。どうぞ、その辺のところをこれからもご理解の上、よろしくお願いいたします。今日は、ほんとうにお疲れさまでした。

田畑委員と山崎委員は今回をもちまして審査委員を退任されます。ありがとうございました !!

交流会

成果発表会が終了後、同会場にて、恒例サポーターズクラブ主催の「交流会」が開催されました。50 名以上の参加者の方々が一同に会し、発表会では語りきれなかった裏話、苦労話を交えて、審査委員や各グループの方々と語らい、楽しいひとときとなりました。

また、千代田「まちづくりサポート」が、制度や仕組みの面で範としてきた世田谷区「まちづくりファンド」のサポーターズの方もお見えになり、世田谷と千代田のグループ同士での交流も今後していきたい、との呼びかけもありました。市民による提案型まちづくりの動きが、一層広がっていくことに期待が集まりました。

事務局よりのお知らせ

次回のまちづくりサポートについては、初動期活動を対象としたトライアル部門の新設など、助成制度のバージョンアップ・支援体制の充実を目指して検討を進めています。よって、応募方法などにつきましても、若干の変更があります。

第 8 回の応募要項につきましては、区広報誌および当財団ホームページでお知らせいたします。

（財団ホームページ　http://www.mm-chiyoda.or.jp/ ）

なお、本助成制度のお問い合わせや事前相談につきましては、随時受け付けておりますので、下記事務局までご連絡下さい。

【事務局へのお問い合わせ】

（財）まちみらい千代田　企画総務チーム　　担当：阿部
TEL：03-3233-7555（代）
FAX：03-3233-7557
e-mail：info@mm-chiyoda.or.jp
〒 101-0054
千代田区神田錦町 3-21
ちよだプラットフォームスクウェア 4 階

(財) まちみらい千代田　賛助会員一覧（法人 80 社・個人 69 名　計 149）

2005 年 3 月 30 日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています。＜賛助会員募集中＞

賛助会員名簿 (法人)

＜保険関係＞
あいおい損害保険 (株)
日本興亜損害保険 (株)

＜金融機関＞
興産信用金庫
城北信用金庫神田支店
(株) 東京都民銀行神田支店
(株) 三菱東京 UFJ 銀行
(株) 東日本銀行飯田橋支店
みずほ信託銀行 (株)
(株) りそな銀行

＜建築・土木関係＞
(株) 大林組東京本社
大林道路 (株) 関東支店
鹿島建設 (株) 東京建築支店
鹿島道路 (株)
(株) 熊谷組首都圏支店
五洋建設 (株)
清水建設 (株)
(株) 錢高組東京支社
大末建設 (株)
大成建設 (株)
(株) 竹中工務店
中央建設 (株)
鉄建建設 (株)
東京鋪装工業 (株)
常盤工業 (株)
戸田建設 (株) 東京支店
飛島建設 (株) 関東土木支店
(株) ガイアート TK
(株) ナカノフドー建設
日東みらい建設 (株)
前田建設工業 (株)
(株) 間組東京支店
真柄建設 (株) 東京支店
(株) 増岡組東京支店
三井建設 (株)

＜不動産関係＞
エヌティティ都市開発 (株)
協永不動産 (株)
(株) 共立エステート
(株) 久保工
住友不動産 (株)
大日本企業 (株)
三井不動産 (株)
三菱地所 (株)
安田不動産 (株)

＜建設設計＞
(株) アール・アイ・エー
(株) アイテック計画
(株)AD プロジェクト
(株) エルイー創造研究所
(株) 関東設計
(株) 楠山設計
太平工業 (株) 東京支店
(株) 都市環境計画研究所
パシフィックコンサルタンツ (株)
(株) 日立建設設計
(株) ポリテック・エイディディ
(株) 松田平田設計
マト設計・コンサル (株)
ラウム計画設計研究所

＜ビル管理＞
鹿島建物総合管理 (株)
東京美化 (株)
本州ビル・メインテナンス (株)

＜広告代理業＞
(有) フィレール

＜ 電機・通信関係＞
三洋電機 (株)

＜緑花・環境関係＞
日産緑化 (株)

＜コンサルタント＞
(株) アーバントラフィックエンジニアリング
(株) アフタヌーンソサエティ
(株) エコプラン
(株) 新都市企画
(株) 都市デザインシステム
ランドブレイン (株)
NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会
NPO 法人マンション管理支援協議会

＜その他＞
秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
(株) イサミヤ
神田古書店連盟
(社) 東京都建築士事務所協会
千代田支部
(株) メガ
フィールファイン (株)
ヨシモトポール (株)

賛助会員名簿 (個人)〔敬称略〕

青木 孝次	安孫子 政夫
安藤 岩三郎	伊澤 優
泉澤 定雄	伊東 敏雄
犬伏 真	今川 守
浦田 泉	扇谷 和栄
大熊 伸	角地 登志子
加藤 武夫	神戸 祐三
北見 拓	木村 進一
小山 政士	今野 隆雄
佐々木 明美	佐藤 章子
新濱信幸	鈴木 勉
鈴木仁史	須藤 昭雄
瀬川 昌輝	高瀬 拓
高鍋 龍市	立山 光昭
寺沢 譲	戸田 豊重
中尾 嘉男	二木 憲一
早川 平典	堀部 剛正
松谷 優子	松波 道廣
木場 弓子	三原 久徳
宮寺 孝臣	三輪 瑛子
森田 克弥	山内 秀男
山崎 泰廣	渡邊 和

他 25 名